

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 8-1

電話：03-5550-2400

担当者の所属・氏名 臨床検査科 予防医療センター生理機能検査
吉田 泰子

【研究責任者】 吉田 泰子

聖路加国際病院 臨床検査科

予防医療センター乳房超音波検査受診の方を対象とした乳房腫瘍および非腫瘍性病変の評価にカラードプラを加えることの有用性に関する研究

1.研究の対象

2011年1月～2011年6月に予防医療センターの任意型乳房超音波検診で、何らかの所見が指摘された症例のうち、

- ①要精査となり良悪性の診断の得られている症例
- ②精査不要であったが2013年以降にも検診を受診し、約2年の経過を追うことができた症例

2.研究の目的・方法

乳がん検診において現時点で死亡率減少効果が証明されている手法はマンモグラフィですが、すでに日本では任意型として超音波検診が普及しています。しかし、超音波では、良性病変もまた多く検出される確率が高いことが知られており、不要な精密検査が増えることが危惧されます。精度管理を行い、いかに効率的に精密検査の要不要を判定していくかが重要となってきます。現在、検診において用いられている要精査基準は、Bモード（通常の超音波画像）のみでの判定であり、血流情報は参考所見とされ、その有用性について詳細な検討はこれまで報告がありません。この研究では、任意型乳房超音波検診において乳房腫瘍および非腫瘍性病変の評価にカラードプラ（通常の超音波画像に血流情報を追加した画像）を加えることの有用性を検討します。超音波検診の精度を上げ、不要な精密検査を減らすことで、受診者の負担を軽減できるものと考えています。なお、この調査では当センターで行われる通常の検診以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2017年12月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

《情報》 Bモード画像評価、血流の多寡、要精査の場合の良悪性の結果 等